

## 平成25年度共同研究の概要（成果報告書抜粋）

研究種目： 若手奨励研究

研究代表者： 衣笠 利彦（鳥取大学農学部・助教）

研究分担者： なし

研究題目（和文）：

モンゴル草原における低嗜好性雑草 *Artemisia adamsii* の定着と拡大

研究概要（和文）：

*Artemisia adamsii* はキク科ヨモギ属の多年生草本で、攪乱跡地に侵入し速やかに分布を拡大する。モンゴル草原では近年過放牧など的人為的攪乱により、*A. adamsii* の分布が拡大している。*A. adamsii* は家畜の嗜好性が低く、その拡大は草原の放牧地としての価値を低下させる。そのためモンゴル草原の放牧地としての価値を維持するには、*A. adamsii* の侵入定着と分布拡大をコントロールする必要がある。*A. adamsii* は微小な種子を多数生産し、地下茎を持つことが知られている。そのため *A. adamsii* の定着と拡大をコントロールするには、種子の発芽能力と地下茎の伸長能力を理解する必要がある。そこで平成24年度に *A. adamsii* の種子生産量と種子の発芽特性を調査し、平成25年度に地下茎伸長能力を評価した。

モンゴル国バヤンウンジュールの草原で調査した *A. adamsii* 個体群では、1m<sup>2</sup> あたり約16万粒の種子が生産されていた。*A. adamsii* の種子発芽は赤色光下で高い温度依存性を示し、最適温度は約18°C、最適温度における発芽率は約80%であった。暗所および遠赤色光下における発芽率は赤色光下よりも低かった。発芽した個体は6ヶ月後までに60個以上の子ラメットを生産し、子ラメットと親ラメットの距離は最大27cm離れていた。

以上から、*A. adamsii* は光が十分な適温条件下ではその80%近くが発芽し、発芽後は1シーズンで直径50cmほどのパッチを形成することが明らかになった。したがって種子生産前の地上部除去が有効な防除法の1つであると考えられるが、同時に休眠種子の発芽を抑える必要があるだろう。地上部は地下茎を介して広く結合しているため、今後は地上部除去後の再成長能力を明らかにする必要がある。